

剣道と生活

松原剣道

小学四年

宮坂

遙真

ぼくは、三年前の夏に、剣道をはじめました。

ぼくの道場には、南先生という先生がいます。南先生が言っていた言葉で「百里の道は九十九里をもつてながばとぢす」が、心にのこっています。去年の持久走大会の時、ぼくは最後の方で、あきらめて歩いてしまいました。た。ゴールした後ぼくは、「がんばったと思っただけねど、その話を聞いて、それは、ちがうと感じました。

ぼくの道場には、「ふりを速く」と言う先生もいれば、「ふりをきれいにゆっくりにしろ」と言う先生もいます。ぼくは、「どっちが正しいんだろう」と思っただけど、お父さんに、「どっちも正しいんだよ」と言われて、「たしかにそうだと、思いました。

ぼくのお父さんは、剣道をやっ

剣道の動画を見て、アドバイスをくれれます。

ぼくの両親は、毎朝のすぶりをすすめてく
れます。すぶりの時、お兄ちゃんか教えてく
れます。お兄ちゃんか、まだ小学生で、生先
に注意されることもあるけれどぼくに教えて
くれるので、とてもありがたいと思います。

勉強の時には、お母さんが「私がいくら言
てもその本人がやらなきゃ仕方がない」と言
ます。だから先生に注意されたらそれをやら
なきゃダメだから、いつもそうした方がいい
と思いました。

もう一つ、南先が言った、バにのこって
いる言葉がありますそれは、「平常バ」です。
試合の時それをバから考えるようにしていま
す。学校の体育の大会でも平常バをバがけて
勝てる時があります。

ぼくは、えらい人をめざしています。南先
生が、「本当のえらい人は、いつもさあいで
る人じゃないさあいでない人だ」と言っ
ていました。ぼくは、「本当のえらい人は、人

のことを鬼って行動できるとだれとも思いません。

ぼくは今、本当の剣道は、何かを知りたいです。いままで先生が言ったことを思い出して考えてみると、美しくできるかをやるぶ道だと思えます。

ぼくが、剣道をやって身に付いた事は、相手のことを考えることや、す直に人の意見を書きいれることだとも思えます。

ぼくは、剣道は、自由な女生をよい方にかえるぶ道だとも思えます。